

●黒豆味噌づくり 希望者が無く やむなく中止といたします

年末にご案内をいたしましたが申し込みがなく、中止となりました。現地、福知山市夜久野町の堀島農園では今年こそお越しになると随分と期待をされていました。温暖化の影響で雪が積もっているところなのですが、全くその気配がないようです。

15日の事務局会議で申し込みのない背景は何だろうかと議論を深めると、とにかく高齢化による影響が大きいのではないか、減塩味噌が市場に出回っている、それほど大量の味噌が必要になっていない、などこれまでのキャッチフレーズが身近に行き届いているといった時代の流れとなっているらしいとの答えが返ってきました。

●里山農園の野菜の栽培継続は昨年に続き、今年も赤字の見通しで 新年度から各個人の自由栽培方式に移行か
前号でお知らせしましたが、里山農園での野菜の栽培と販売実績は、赤字が2年続きという事態を避けられない状況になっています。このまま栽培を継続することは会計上不可能なのです。最高販売額時の四分の一になり、経費は例年同じ規模なのでから継続は非常に困難になります。最近積極的に栽培を行うと意欲に燃えることが少なくなってきたが、これも高齢化による影響かもしれません。しかし、これまで里山農園が果たしてきた役割は多大なものです。オオムラサキの観察調査、七草摘みの会、蛍の集いと里山音楽会、春の野草を味わう会等の定番活動を支えてきたものは計り知れないものです。そして維持管理作業を通じて随分と交流が深まり、新しい仲間と知り合いになれる場づくりなどでの準備は困難なものでしたが役割を立派に果たしてきました。栽培や販売が赤字だからと言って他の団体では味わえない取り組みが進められたことを改めて認識させられています。今ここで一挙に失うことは誠に悪いことです。継続がされるよう努力検討すべき時を迎えているのです。

●里山農園付近の生き物写真集の第1次原稿が集約されてきました

ここ数年生き物の写真撮影をお願いしてきた金田さんから寄せられてきたものは65枚もあります。いずれにも思いがこもった楽しいお話が満載です。これをどのように表すのだろうかと苦心をしています。現在のところヤマトサンショウウオや周囲の大型動物にまで進んでいませんが、昨年からの夜間撮影の結果などを加えると、随分と楽しい写真集になってくるのが楽しみです。ご期待ください。第1次分として集約の第一段階を終えています。

●イタセンパラ復活への第一歩が始まる 第1ワンド群、生育池周囲の草刈完了する。第2ワンド群の整備も間もなく完了に

木津川でイタセンパラが確認できなくなったのは2007年ごろと聞いています。淀川水系では自然環境の中で生育が確認できたのが木津川です。絶滅していった最大の原因は盗掘ということです。もちろん肉食外来種の増加も考えられるですが、目につきにくい場所という条件、そして浅いワンドという条件が非常に大きいのではないかと思います。今復活を目指して取り組みを始めようとしています。この二つの課題のクリアが大前提になってくるのではないかと思います。こうした課題をどう克服するのかなどの点について来る1月19日(日)に京田辺市草内の中部住民センターで話し合いを行います。

●木津川が淀川水系で最後のイタセンパラの生育池 現地見学を

盗掘防止は、なんと言っても地域住民に架かっています。深く関心を持って、自主的に監視するや不審な行為を見つけると注意をするなどが出来る地域力・地域連携などが作り上げられるかどうかという一点にかかっていると思われます。木津川沿川のみなさん天然記念物であるイタセンパラの生息する木津川を大切に考え自主的な行動に出ること、そうした行動が定着する地域を作り上げることが第一歩であり、最終目標にあるのではないのでしょうか。今回の取り組みは自然を大切に作る地域づくりが大きな課題でもあります。

●イタセンパラの復活を目指して、有識者16名の打ち合わせ会が1月19日(日)13:00~17:00 中部住民センターで開催予定 会では小川力也先生(本会顧問)が基調報告の準備に全力 当日は2か所の現地見学を計画しています。この事業では5つの課題を考えておりました。初会議ではこれらを中心に据えて話し合えればと予定しています。 ①生育池の周囲の整備と進入路の設置。 ②生育環境の広報。 ③スタッフの研修学習会。④城北ワンドなど先進地の視察研修。⑤ 5地域説明会の実施と啓発

●木津川希少種植生調査管理業務 予定している全作業が終了し報告書作製へ

39 か所の植生調査と 15000 m²の除草作業で、4 月 1 日から年度末 3 月 20 日が期日の取組みでした。植生調査では、冬季はほとんど希少種の芽生えがありませんので、年末に最終調査で終了としました。除草作業では竹蛇籠の製作が 10 月に終わりましたので、除草作業地 39 か所の草刈を 11 月に実施、12 月に大部分の刈草持ち出しを行いました。それぞれが持ち場を活かして取り組んでいただき無事に完了いたしました。これ迄だと年度末に完了報告を行ってききましたが、期日前に報告書の作成が実現できることになりました。ご奮闘いただきました皆様本当にご苦労様でした。

●竹蛇籠製作と中聖牛設置作業も年内に完成終了しています。

8 月中旬から作業場所の草刈やゴミ拾いを準備作業として行い、9 月～10 月を竹蛇籠 27 本の製作をしながら、併設して竹蛇籠製作技術の普及啓発の講習会を土日に行ってきました。そして完成させた竹蛇籠を使って、中聖牛の設置を 11 月 24 日に完成させ、同日の午後に竹蛇籠の中間シンポジウムも見事に成功させられました。設置とシンポジウムを同日開催するスケジュールは、無理ではないかとの懸念を乗り越えて大変うまくまとめることができました。新年度は自力で聖牛を組み建てられるように実力をつけたいものです。

●京都府交響プロジェクト交付金事業・残るは地域説明会 5 か所に

このプロジェクトは 6 項目を組み合わせています。年内にそのうちの 5 項目を完成させました。最後の事業は「木津川はどんな川」と銘打った展示発表会です。5 会場はすでに決定しています。展示内容の最後の詰めと、何よりもできるだけ広く開催を告知する作業です。そして従来に加えて今年はイタセンパラの取組みが始まる初年度です、加えて里山の会結成 25 周年記念の節目の年になりますので、しっかり成功させようと張り切っています。

●尾根筋ハイキングコース京田辺市の最高峰に登ろうのコース整備を 27 日に朝 9 時から計画

ここ 2 年間に来襲した強力な台風で倒木がコース上に倒木被害が発生し、通行困難状態になっているので、コース整備を行います。特にチェーンソーの操作が可能な方の応援を切望しています。我れと思われる皆さんが応援にお越し頂けると大変ありがたいです。応援をお願いします。メールでのご連絡等が頂けるとありがたいです。約 100m に大小あわせて沢山の倒木が重なっております。事務局メンバー 5 人が力を合わせでの作業を予定しています。お手伝いをお願いします。

●絶滅危惧種を守ることは、生命の歴史と、私たちの暮らしを守ること

日本には、世界的にしても豊かな自然が残されていることを知っていますか、現在、国内には未だ知られていない生物も含めて約 30 万種を超える生物がいると考えられています。南北に長い国土、海岸から山岳までの大きな標高差、大小数千の島嶼（とうしょ）を有することにより、日本独特の豊かな自然が作られてきました。哺乳類の 4 割、爬虫類の 6 割、両生類のことは、生命の長い歴史を守る重要なことです。しかし、実はそれだけではなく、私たちの暮らしを守ることにもつながっているのです。

種は、生命の長い歴史の結晶

人間を含む全ての生き物は地球と共に長い歴史をかけて、今のような形になりました。生物の種は生命の長い歴史の結晶であり、それ自体がかけがいのない価値を持っています

多様な生物に支えられる私たちの暮らし

私たちの暮らしは、多様な種が関わり合いながら形成する自然の恵みに支えられています。複雑なバランスで成り立っている自然を守るためには、一つひとつの種を絶滅から守っていくことが大切です。

絶滅危惧種は地域の宝

絶滅危惧種などの生物の中には、伝承や行事に登場したり、その土地の産業の中心となるなど、地域の文化と密接に結びついた種もあります。これらの象徴的な生物の保全は、地域のアイデンティティを見つめ直すことにつながります。

（この項：環境省発行の「日本の生き物たち」パンフから抜粋し掲載したもの）